

りっとう 再発見

126

旧中島家が見た 靈仙寺の歴史

岡栗東歴史民俗博物館

☎ 554-2733 📠 554-2755



▲昔の地域を記す「霊仙寺村地券取調総絵図」

栗東歴史民俗博物館にとって、
靈仙寺は縁の深い地域です。敷
地内に移築されている旧中島家
住宅は、30年ほど前まで、靈仙
寺に建っていた民家なのです。
旧中島家住宅が靈仙寺に建て
られたのはおよそ150年前、
明治時代初期のこと。靈仙寺に
住む中島文次郎が結婚し、分家
したことをきっかけに新たに家
を建てたのです。その頃の靈仙
寺は戸数約50戸、人口200人
余りで、こじんまりした農村の
風景が広がっていました。

靈仙寺の古い集落は周囲に水
路をめぐらせていますが、文次
郎と妻つねとの新居はこの南
東辺の水路に接して建てられま
した。ちょうどその頃から、靈
仙寺の集落から見える風景が
変わり始めました。明治6年
(1873)、集落の水路よりさ
らに西側を流れる中ノ井川(海
老川とも呼ばれる)に物資を運
ぶ船が下るようになります。こ
の船は伊勢落で荷物を積み、蜂
屋と総の船着場で荷物をさらに
積んで川を下りました。琵琶湖
を経て大津まで向かうこの船を
文次郎夫妻と、明治2年に生ま
れた長男文五郎は庭先で見送っ
たことでしょう。

翌明治7年には集落の南西に
志那道(志那港道)が整備され
ます。馬や荷車が通れるよう道
幅は2間(約3・6m)と大き
な道路で、従来の東海道から琵琶
湖を経て大津へ向かうよりも
距離も時間も短縮できる道路で
す。行きかう人の流れは、暮ら
しのなかに新しい時代の息吹を
感じさせたことでしょう。

文五郎は成長し、明治32年
(1899)には長男常三郎が誕
生します。常三郎は祖父が建てた
家に深い思い入れを持って大切
に使いました。時代が昭和になり、
次第に周囲の家並みが草葺きか
ら瓦葺きに変わっていくなか、常
三郎は最後まで草葺き(葺葺き)
にこだわり続けました。当時、志
那道(県道31号線)から見ると靈
仙寺で1軒、葺葺きの屋根を覗か
せる中島家住宅はよく目につい
たそうです。昭和60年(1985)、
老齢に達した常三郎はこの大切
な我が家を市に寄贈し、5年後に
亡くなりました。

中島家3代が暮らした時代は
もちろん、博物館では古代から
の靈仙寺の歴史と文化につい
て、3月11日(土)からの小地域展
「靈仙寺の歴史と文化」で紹介
します。ぜひご覧ください。

《治田保育園》「ありがとうってうれしいね」

友達にも自然
に「ありがとう
」と声をかけ
られる子どもに
育ってほしいと
願っています。



3歳児うさぎ組では、11月か
ら当番活動を始めました。
「今日は○○当番や」と自分か
ら気付いたり、友達と「○○ち
ゃん、今日お当番やな」と誘い
合ったりして取り組んでいます。
毎朝のお休み調べ・みんなの
お帳面並べ・椅子並べなど、当
番になると、いろいろな手伝い
があります。みんなの手伝いが
できることで、少しお兄さんお
姉さんになった気分になり、「お
当番さん、ありがとう」と言っ
てもらったことがうれしくて、張
り切っている子どもたちです。
「ありがとう」は子どもたち
にとって魔法の言葉、「ありが
とう」の言葉をかけられること
でほんわかと温かい気持ちにな
ります。

園幼児課

☎ 551-0424
📠 551-0149



くりちゃん元気いっぱい運動 第3弾
ありがとうが言える子育て (36)